

ダルマガエル類

トウキョウダルマガエル *Rana porosa porosa*
 ナゴヤダルマガエル *Rana porosa brevipoda*

環境省レッドリスト：準絶滅危惧
 環境省レッドリスト：絶滅危惧 B類

トウキョウダルマガエル



← 体長：約4~8.5cm →

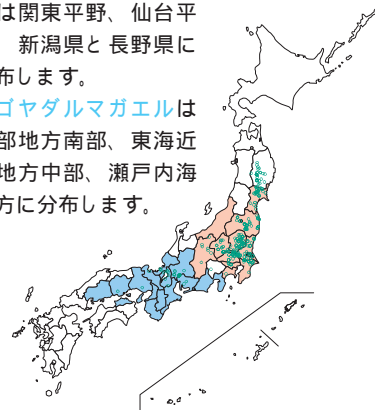
ナゴヤダルマガエル



← 体長：約3.5~7cm →

分布

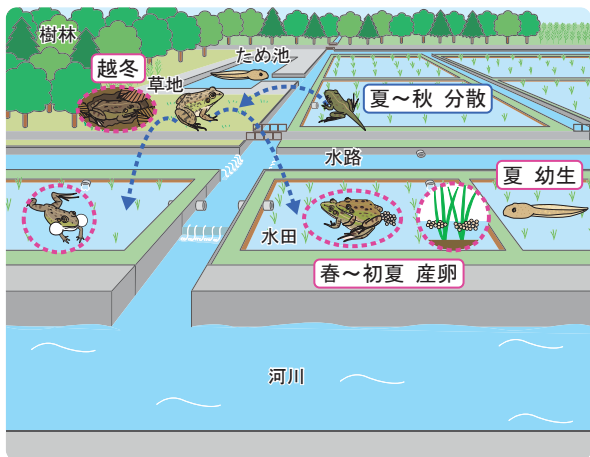
トウキョウダルマガエルは関東平野、仙台平野、新潟県と長野県に分布します。
 ナゴヤダルマガエルは中部地方南部、東海近畿地方中部、瀬戸内海地方に分布します。



●：「田んぼの生きもの調査」での確認箇所

メモ 四肢がやや短いずんぐりした中型のカエルです。トノサマガエルに似ていますが、背中中の斑紋が一つずつ独立しているのが特徴です。

生態 ---> : 本来の移動経路 (---○---) : 生息環境



主な産卵環境と生息環境 <---> : 主な生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
	産卵	産卵			

生活史

平地に生息し、1年を通じて水辺からあまり離れません。初夏から夏に水田や浅いため池で産卵し、卵は水草や抽水植物に付着します。幼生(オタマジャクシ)は、盛夏頃に幼体(子ガエル)となり、上陸して水辺の草地などに分散します。水辺の土の中で越冬します。

写真



トウキョウダルマガエル
 トノサマガエルと混同されることもあります(関東地方にトノサマガエルは分布しないため、関東でトノサマガエルと呼ばれるのは本種)。

ダルマガエル類の卵

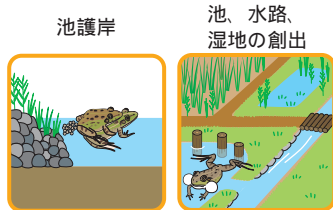
トウキョウダルマガエルとナゴヤダルマガエルは、水田などの止水に産卵します。卵は水面にシート状に広がります。



配慮対策

生息環境の確保 水草のある水辺環境の創出

保全池・ビオトープの対象工法



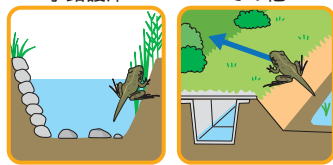
- 【池護岸】
- 自然石系 p.85
- 複合系 p.86
- (捨石等による緩傾斜護岸)
- かご系 p.87
- 木系 p.88
- 二次製品系 p.89
- 【池、水路、湿地の創出】
- 保全池 p.90
- 耕作放棄地等のビオトープ化 p.92

【配慮ポイント】

・水草や抽水植物に産卵するため、護岸の植生や水草の生育、水深に配慮する工夫が必要です。

移動経路の確保 水域と陸域の連続性の確保

環境配慮型水路の対象工法



- 【水路護岸】
- 土水路 p.73
- かご系 p.74
- 木系 p.75
- 自然石系 p.76
- 二次製品系 p.77
- 【その他】
- 蓋掛け p.79

保全池・ビオトープの対象工法

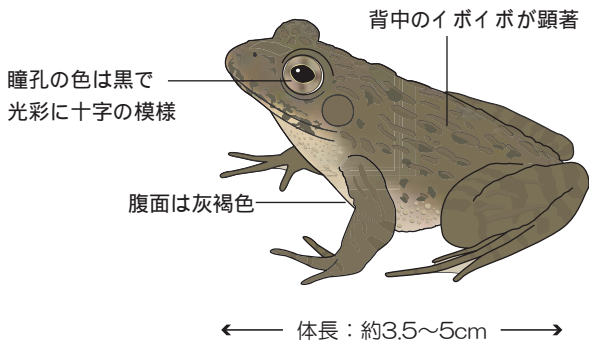


- 【池護岸】
- 自然石系 p.85
- 複合系 p.86
- (捨石等による緩傾斜護岸)
- かご系 p.87
- 木系 p.88
- 二次製品系 p.89
- 【池、水路、湿地の創出】
- 承水路 p.91
- 【その他】
- 表土利用による植生回復 p.93

【配慮ポイント】

・水田やため池と草地や樹林を往来する個体もいるため、移動経路となる水域と陸域の連続性を確保する工夫が必要です。

別名：イボガエル



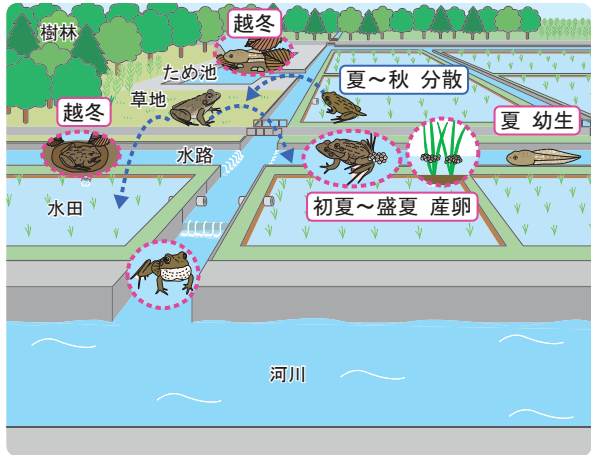
メモ 暗灰色から灰褐色で、背中には大きなイボイボで覆われています。身を守るために、体からいやな臭いを出します。

分布 ●：「田んぼの生きもの調査」での確認箇所

本州、四国、九州、佐渡島、隠岐、舌岐、五島列島などに分布します。
北海道西部、伊豆大島には人為移入。



生態 --->：本来の移動経路 ○：生息環境



主な産卵環境と生息環境 <-->：主な生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
	産卵		産卵		

生活史

平地から山地に生息し、1年を通じて水辺からあまり離れません。初夏から盛夏にため池や水路、河川の水たまり、水田などで産卵し、卵を水草の茎に産み付けます。1年目の幼生(オタマジャクシ)はそのまま水中で越冬し、翌年の初夏から夏に幼体(子ガエル)となり、上陸後は水辺の草地などに分散します。成体および幼体の状態で、池や小川の泥の中で越冬します。

写真



海水がかかる水たまりから山地の溪流までさまざまな水辺環境に生息します。特にアリ類を好んで食べます。

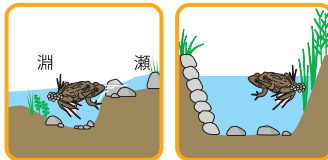


背中線のある個体も稀にみられます。

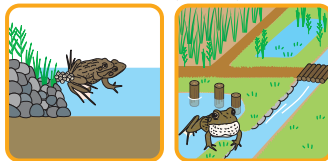
配慮対策

生息環境の確保 水草のある水辺環境の創出

環境配慮型水路の対象工法
水路断面 水路護岸



保全池・ビオトープの対象工法
池護岸 池、水路、湿地の創出



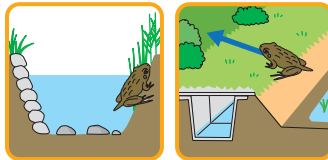
【配慮ポイント】

・水草などに産卵するため、護岸の植生や水草の生育、水深に配慮する工夫が必要です。

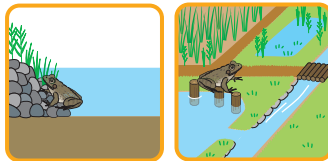
【水路断面】	
瀬・淵	p.69
ワンド	p.70
敷石、砂、砂利、玉石、植生	p.72
【水路護岸】	
土水路	p.73
かご系	p.74
木系	p.75
自然石系	p.76
二次製品系	p.77
【池護岸】	
自然石系	p.85
複合系	p.86
(捨石等による緩傾斜護岸)	
かご系	p.87
木系	p.88
二次製品系	p.89
【池、水路、湿地の創出】	
保全池	p.90
耕作放棄地等のビオトープ化	p.92

移動経路の確保 水域と陸域の連続性の確保

環境配慮型水路の対象工法
水路護岸 その他



保全池・ビオトープの対象工法
池護岸 池、水路、湿地の創出



その他



【水路護岸】	
土水路	p.73
二次製品系	p.77
生息環境の確保と同様	
【その他】	
蓋掛け	p.79
【池護岸】	
自然石系	p.85
二次製品系	p.89
生息環境の確保と同様	
【池、水路、湿地の創出】	
承水路	p.91
【その他】	
表土利用による植生回復	p.93

【配慮ポイント】

・水田やため池と草地や樹林を往来する個体もいるため、移動経路となる水域と陸域の連続性を確保する工夫が必要です。